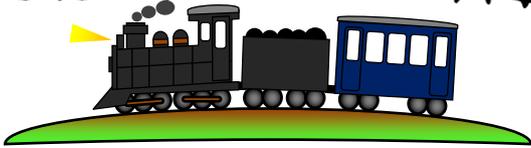


福祉 あい?こい?列車



特定非営利活動法人 たすけあい一歩

代表 横田治絵

〒276-0026 八千代市下市場1-5-8

☎:047(485)7050 FAX:047(411)7626

Eメール tasukeai.ippo@gmail.com



Take free 1日自由にお持ちください

よろしく  
にやー!

# 夢と希望の新年



八千代市を中心とした たすけあい活動32年目、  
ことしもよろしくお願いたします

特定非営利活動法人 **たすけあい一歩**

**協賛** 株式会社 **あゆみ まほうの家**

匿名  
助  
会  
員  
賛

# 夢と希望に向かって

代表 横田治絵

「二十四の瞳」で知られる坪井栄が、晩年「あと何回新年を迎えることができるだろうか?」と言われた言葉が50年も前から私の頭に住みついて、なぜか新年を迎えるたびに頭の片隅から甦って来るのです。坪井栄がそんなことを話して間もなく亡くなられたことが、その言葉の印象を強くしたのかもしれませんが、最近ではその言葉が年単位ではなく、日々思い出され、その言葉を口にした坪井栄の心情まで伝わってくる年になりました。誠に心引き締まる新年でございます。

さて、時の流れは本当に早いもので、私にも3回目のケアマネ更新研修がやって来ました。5年前の更新の時、もうこれで卒業しようと思っておりました。しかし、良識ある真面目なケアマネになかなか会えずに、顔は笑っていても心は正直、出口の無い暗闇をさまよっているような気持ちでした。でも、昔から今度は無理という状況に置かれても必ず乗り越えて来ました。だからいつかきっとよいケアマネージャーに巡り合えるという希望を捨てませんでした。「まほうの家」はほぼ奇跡に等しく設立されました。そして開設した「まほうの家」には奇跡としか思えない出来事がたくさんありました。話せば長いことになりますが、何と言ってもまずは奇跡を生み出す場を与えてくださったのが千葉信用金庫でした。とても筆舌にはおさまらないほどの感謝、感謝でございます。正直言いますと、この仕事は常に荒波にさらされ、順風満帆とは言えません。しかし岩をも通す一途な思いと決してあきらめないという信念を持っていれば、介護される人にも介護する人にも、その足元に光が射し、その道は

決して途絶えることなく続いていくのです。金儲けのために仕事をするのではなく、よりよい仕事をして得る報酬が結果なのです。介護の世界の報酬の低さは大問題ですが、介護ケアの質を向上させていく手を緩めてはならないのです。この度ようやくケアマネがひとり増えました。潤心時代に4人が一緒にケアマネに合格し、もうひとり紹介でいらしたケアマネと5人で、心強い限りでしたが、皆さんがそれぞれの理由で退職してから、のちに入ってきたケアマネの中でM・M氏、株式会社あゆみではC・H氏は人を引き込む巧みな唇を持ち、仕事はせず、常に陰謀をめぐらしお金をむさぼるだけのケアマネでした。ケアマネ欲しさに冷静に人を見ることができませんでした。介護のトータルコーディネーターであるケアマネが邪な思いを持つなんて許されることではないでしょう。何度も痛手を負わされてとても引退なんてできないと思い、ここまで17年がんばりましたが、そろそろ交代の時期が来たと思っておりました。新しいケアマネは同じ病気を克服中で命の尊さをともに共有しており、まさに同士という思いでおります。

『町田隆夫ケアマネ』よりひとこと  
『横田さんとともに病気と折り合いをつけながら、皆さんの命を預かっていることを常に意識して、傾聴・共感し、より



良質なケア支援ができるように努力したいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。』

最後の砦と思って細く長くがんばっていただきたい。それではことしも夢と希望に向かって突き進んでまいりますので、あたたかいご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

元旦



# 誰もが行く道

人のはじめは皆一様です。生んでくれた親と生まれた環境はそれぞれまったく違います。生きる道はふたつに分かれています。親とその環境を守っていく道と、生んでくれた親とその環境を飛び出して新しく切り開いていく道と。そして道はまた分かれていくのです。どちらの道を選んででも、それが良いとか悪いとかということはありません。どちらの道でも重要なことは生き方なのです。そして人の最後は皆一様です。

今日、ふたりにひとりが癌だと言われるようになりました。初めて癌の人に遭遇したのは19歳の時、虫垂炎で入院していた時でした。術後何日かして屋上に新鮮な空気を吸いに行った時、20代後半の男性が空に向かって「俺は癌だ、あと少しで死ぬぞー」と言っているではありませんか。思わず後ずさりをしてしまいました。ご近所でも、母の知人のご主人が癌になり周囲は異様な雰囲気になりました。しかもなぜか妻も大人になっている子供までが傍に近づこうとしないのです。見たところ非常に怖がっておられました。当時は本人に告知をするということはありませんでしたので、告知された家族が嘘の演技をしながら秘密を必死に守ろうとするには大変なストレスで心が悲鳴を上げていたと思います。母がそのかたの最後を見届けて差しあげました。その母の死後、父が癌になりました。また介護保険前から一緒に在宅福祉活動をした仲間の晴山さん、方波見さん、麻生さん、そして介護保険の活動になってからは戸田さんが癌で亡くなりました。もちろん利用会員の中でもさっと思い出してみるだけでも20名以上はありました。心臓や脳卒中を超えて今や癌が死亡率のナンバーワンを更新し続けています。正直私は絶対に癌にはならないと思っておりました。保険も癌だけは外しておいたぐらいです。そんな私が父と同じ腎臓癌になりました。私だけは大丈夫という考え方は見事に打ち砕かれました。考えてみたら父方の家系は癌系でした。でも癌イコール死ではありません。長い人では20年も癌と共存しているかたもおります。私も4年前に腎臓を摘出して、その後はアナフィラキシーショックのおかげで何の治療もせずにここまで来ました。人それぞれですが私の場合は、もしインターフェロンや抗癌剤

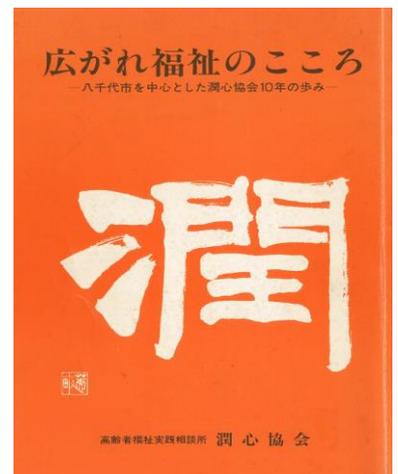
を使用していたらこんなに元気ではいらなかったと思います。今何が起きても怖いものはありません。癌でなくても何時お迎えが来てもおかしくない歳になりました。古希を迎えることができなかつたかたたちのことを考えると、私はなんと恵まれた人生だったのかと感謝でいっぱいです。

人の最後は皆一様です。願わくば、今は1日でも長く元気な日をいただき、ある日は過去と戯れ、ある日は後継者を見守り、またある日は自然界の移り変わりを、ただ静かにこの目で見つめていたい。いつか来るその日のことを考えながら。

## 若くして逝ったAさんが教えてくれたこと

思い返してみると、癌のためにお別れした人はお年寄りよりも50歳前後のかたが多かったとは一体どうしたことなのでしょう？ 私たちの在宅福祉活動はお年寄りへの支援ということでしたが、事情によっては一般のかたでも利用できました。そのうち50歳前後で亡くなられたかたが記憶に残るだけで7名もおりました。AさんとBさんはご近所同士。Cさんは現役の保健師。Dさんは事務所の近くで歩いて行ける距離でした。死と向き合っている皆さんの傍で、無力さを噛みしめながら精一杯お手伝いさせていただきました。皆それぞれに悩み苦しみそれでもがんばりました。

振り返ってみると、もう21年もの歳月が流れていました。そう、Aさんは私と同じ歳だったのです。「たすけあい活動」がちょうど10年を迎えた時、Aさんは「命の火」と題して10年の「歩み誌」に寄稿してくださいました。今日読み返してみても何も触らないほうがAさんの思いも当時の状況も一目瞭然なので、これはそのまま掲載させていただきます。



## 『命の火』 A(利用会員)

「きょうも1日、無事元気で終わろうとしています」  
私もこの15年間は、癌との毎日毎日の闘いでした。いや、今も私は闘い続けています。いちばん下の子供が1歳、上ふたりの男の子が3歳と4歳の、いちばん子育ての忙しい時でした。左の乳房に小さな小豆大のしこりを見つけた私は、県立がんセンターですぐ左乳房の除去手術を受けました。無くした乳房を悲しんでいる暇はありません。退院したその日から3人の子供たちのための目まぐるしい毎日が待っていました。先生から「5年経てばもう大丈夫です」と言われ、その5年目を迎えようとしていた時、なんとなく受けた子宮癌検診で、また引っかかってしまいました。どうして私だけがこんな目に遭わなければならないのか…と、日々落ち込むこともありましたが、もともと楽天的な性格のため、何とか乗り切ることができました。ふたつの手術を受け、私の人生観も変わってしまいました。いつ何が起こってもいいように、後悔のない人生を送らなければと、どんどん外に出て苦手であったスポーツにも取り組んでいきました。でもそれも束の間、今度は少しずつ足が乱れるようになり、再びがんセンターを訪れました。最初は首をかしげていた先生も、1年ほどしてまったく歩けなくなった私に「脊髄損傷で、もう歩けるようにはならないでしょう」との冷たい宣言でした。下半身不随、今まで下半身不随の人の話を聞いては「大変なんだなあ」と思っていたが、まさか自分がそのような目に遭うとは、何もかも一から覚えていかなければならないのです。車椅子の練習、ベッドへの上がり下り、トイレの訓練、自分の身体がまったく思い通りにならないもどかしさ、我が身を思い何度か

涙したことがありました。でも人間って不思議なものです。自分のおかれた立場を認め生きて行かなくてはならないのです。私はこのような経験をして、自分がより強くなったように思えます。人々の優しさも素直に受けることができるようになりました。買い物や旅行に行くと、近くの人たちが車椅子を押してくれます。そっと気配りをしてくれます。また家では3人の子供たちが私の手足となって気遣ってくれ、外出の時など子供たちでおぶったり抱いたりしてくれます。元気であれば決して経験できなかったことでしょう。そして何よりもありがたかったことは、潤心協会の人々と知り合えたことです。入院中「家に帰ったらどうしよう」と思い悩んでいた時、潤心協会の話聞き、すぎる思いでお願いすることにしました。初めは不安もありましたが、協会の人たちと接するにつけ「なんてすばらしい人たちの集まりなんだろう」と、頭の下がる思いがします。家事一般してくださるうえに、ボランティア精神としての心配りのすばらしいものがあります。聞きますと10周年とか。今までのご苦勞の上に今の潤心協会がまた、ますますボランティアの輪を広げていかれることと思われま。今まだ、私の身体の中では癌が巣食っています。病気に負けないため闘っていかねばなりません。優しい家族、潤心協会の人たちの助けを借りて…。お年寄りのかた、難病で苦しんでいらっしやるかた、私たちは幸せ者だと思いません。人々の優しさに触れることができ…。悲しい時もあるかもしれませんが、笑顔を見せて、明日がより良い日でありますよう、命ある限り生きていきたいと思います。

Aさんの前向きの姿勢は当時同じ病気で落ち込んでいたBさん、Cさんを、そしてDさんを励まし建て起こしたのです。Aさんのご近所のBさんをご自分が肺がんであることは知らないようでしたが、何か難しい病気であることは感じていらして、落ち込んでいました。BさんはAさんが癌であることを知っていました。AさんがBさんをいつも気にされて、「私もがんばっているから、Bさんもがんばってね」という伝言を頼まれ伝書バトの役目も果たしておりました。そのうちBさんが「横田さん病気が治ったら私を使ってください」と言うので「喜んでお願いします。協力会員不足ですから」と努

めて明るく返すと「力もなくなってしまうと、私にできることがあるかしら？」と不安な心を覗かす。「大丈夫よ！電話受付だって、チラシ折りだってあるわよ」「そうー。なんだか私もAさんのように元気になれそう。実を言うと私鬱になっていたの。お義父さんの面倒をもっと見ればよかったのに出来なかったから罰が当たったのかと思っていました。本当にありがとうございます」と。その数か月後Bさんはご自宅で息を引き取られました。

Cさんは八千代市の保健師さんでした。私達が協力に入ったころには在宅酸素をして寝起きもまま

ならない状態になっていました。更には褥瘡が何か所かありました。ご主人は仕事で、子供は学校でという中で日中独居という状況でした。協力依頼の内容は、お食事と見守りでした。Cさんは酸素の調整も、褥瘡の手当てもご自分でやられておりました。でもその頃はもう歩行も不安定でベッドから酸素の機械まで行くのもおぼつかない。さらに見えにくい部分の褥瘡の手当て等、とても見ていられませんでした。思わず手を出そうとしたら、「いいのよ、これは医療行為だから」と言われたのです。確かに保健師ですからそういうことはいちばんよくご存知でした。でもたとえ500円でもお金をいただく以上は、見守りでございますなんてむしろいたたまれない思いでした。「Cさんは保健師として酸素管理や褥瘡の手当てをしなければとがんばられておりますが、今のお体では無理があるのではないのでしょうか？ どうかお口で私たちに指示をして、私たちの手を使ってください」とお願いしました。Cさんは少しずつ私たちの手を活用するようになってくださいました。そんなある日、Cさんは「私は一体何をして来たのでしょうか。厳しいことばかり言ってきたような気がします。正直あなたたちの活動は知っていたけど、おままとだと思っていました。私が間違っていました。あなたたちのやってきたのが立派な在宅福祉よ」とおっしゃってください、どんなことへも挑戦していた私たちの活動へのエールをいただいたようでした。

Dさんは下市場の事務所の近くにいたかたでした。寝たきり状態になっておられましたが、訪問看護が毎日入ってストマーの交換と清式等をしておりました。私たちはお食事のことでお昼前後に行っていました。Dさんは日に日に暗くなり精神的にも不安定状態が見られるようになっていきました。努めて明るく自然体で声掛けするようにしていたつもりでしたが、緊張感が伝わるのでしょうか、声を荒げて「あなたには私の気持ちはわからないでしょう」と言われました。逃げるように台所に行って、食事作りに専念しようとしても、無性に涙が出てきて仕方がありませんでした。悔しいのではなく、意思の疎通がとれないことが悔しかったのです。

翌日私は早めに食事作りを終えて、Dさんの横に座って話しました。「私は癌じゃないから確かにDさんの気持ちが分かってあげられないのかもしれませんが。たとえ私がどんな慰めの言葉を話してもそれはきっと

➤Dさんの心には入って行かないと思います。でも同じ立場に置かれている人の言葉は違うと思うので、きょうはこの本の中に寄稿されているAさんの書かれたものをお読みしますので、是非聞いてください」と言って私はAさんの書いた「命の火」をゆっくりと読み始めました。私は本に語らせると言う方法を取ったのです。

翌日看護師さんから電話があつて、ドキンとしました。「何かありましたか？」と聞くと「何かあったのかと聞きたくて？」と言われる。私はきのうのことを話しました。看護師は「あー、それで分かったわ。ものすごく暗かったのが、急に挨拶とかありがとうとか言うので、何かあったのではないかと思った」と言うのです。

Aさんの書いた「命の火」はDさんの心を明るく前向きに変えてしまったのです。Aさんの「命の火」は20年経っても現実に即して、癌になってしまった私を力強く励ましてくれるのです。私の人生も波乱万丈でしたが、Aさんのように最後まで明るく前向きでありたいとつくづく感じております。

改めて誰もが行く道を誰もが真剣に考えてほしいと思います。今日、ターミナルケアは病院から在宅へと移行しております。私は住み慣れた場所や自分が最後を迎えたい場所は大切なことだと思います。ただ、いくら住み慣れた場所でも、見知らぬ世界への旅立は不安です。必要以上に不安を募らせることのないように、人生の最後のひと月ぐらいは常に誰かが傍にいてあげてほしいと心から願って止みません。





「愛の郷・フランシスコの家」  
福島・郡山市 1987年

# さようなら～「<sup>あい</sup>愛の郷・<sup>さと</sup>フランシスコの家」

郡山駅からバスで1時間ほどの所にあった「愛の郷・フランシスコの家」はミッション系の特別養護老人ホームを定年退職した平章子さんと斉藤幸さんが退職金をつぎ込んで建てたおふたりの思い入れの深い施設でした。私が「朝日新聞」を見て矢も楯もたまらず飛んで行ったのが昭和62年11月でした。平さんと斉藤さんはその時62歳でした。「愛の郷」の周りを整備して少しずつ建て増していこうと熱意に燃えてがんばっておられました。道半ばで平さんが癌で亡くなられ、斉藤さんの落胆ぶりは如何ばかりかと私の心も痛みました。仕事に追われ、休む間もない私でしたが、何とか抜け出し斉藤さんを励ましたい一心で、「愛の郷」まで飛んで行ったのです。もちろん斉藤さんは大歓迎くださり、より深いお付き合いが始まりました。しかも励ますつもりが斉藤さんにお会いすると癒されてしまうのです。私にもこんなに「ホッ」とする空間があったなんて信じられない思いでした。いろいろお話ししているうちに亡き母が東京の聖母病院に入退院していた話から、斉藤さんたちが働いていらしたところその系列の施設だったということで、ますます引き寄せられるものがありました。毎年八千代の梨を送ると、福島の蜜入りのおいしいリンゴが送られてくる。潤心協会が乗っ取りにあった時には心から心配して下さり、たすけあい一步を立ち上げると「よかったよかった」と喜んで

➤くださり賛助会員となって多大なご支援もしていただきました。

時の流れは無情なもので、お年寄りを取り巻く制度も様変わりして、「愛の郷」の維持が厳しくなり、有志者に委ね、斉藤さんたちの思いの詰まった「愛の郷・フランシスコの家」は特別養護老人ホームに取って代わってしまいました。特別養護老人ホームでは出来ない事をと挑んだ「愛の郷・フランシスコの家」は、30年の歳月を経て消滅してしまいました。

せめて平さんと斉藤さんの心が、新しい特別養護老人ホームの中で生き続けますように、心の底から願い続けて参ります。

斉藤幸様 ありがとう、そしてさようなら。

神のみもとで平さんと一緒に世々お健やかであられますよう、お祈り申し上げます。



特定非営利活動法人 たすけあい一步  
(当時 特定非営利活動法人 潤心協会)  
横田治絵代表

平氏・斉藤氏とともに  
1987年10月25日

「パラオリンクス」生放送後  
東京・大田区 11月1日

シンガーソングライター  
水木翔子さん

特定非営利活動法人 たすけあい一歩  
横田治絵 代表

## 横田代表、3度目の生放送!! 水木翔子さんネットラジオ パラオリンクス・「ミナキーの洒落と歌の日々」へゲスト出演、「今まででいちばん緊張しました」

昨年11月1日、横田治絵代表が三たび、シンガーソングライター・水木翔子さんのインターネットラジオ「ミナキーの洒落と歌の日々」(パラオリンクス)にゲスト出演いたしました。見事なトークと“生歌”を全世界に披露してくださいました。当日の放送内容をご紹介します。

きょうのゲストは、この番組のスポンサーでもあります「まほうの家」の代表・横田治絵さんです。どうも、お世話になっております。もう今すごいんですってね、満室になったそうなんですけれども。

反対に、こちらこそお世話になりまして。おかげさまで。

この間、横田さんに来ていただいた時は「満月」だったんですけど、きょうは「満月」……。それはいいんですけども、きょう(11月1日)は「十三夜」、第88回目の放送なんです。すごい縁起のいい数字だし、「十三夜」だし、何だかやっぱり横田さんってツキがあるんでしょうね。そんな気がしますけど。



はい、そうですね、未広がりでも私もそれにのっていきいたいと思います。



この番組も支えていただいておりますのでね、「手をつなごう」もテーマソングでかけさせていただいて、本当にありがたいなと思っております。きょうもよろしくお願ひいたします。

さあ、早速ですけれどもお便りが届いています。「ミナキーさん、横田さん、こんばんは。きょうは横田さん、3回目のご出演と聞いて、画面の前で正座して待っておりました。30年前にワンコイン福祉としてスタートした横田さんの小さな小さな福祉への情熱的な取り組みが、まるで小説や映画を見るように、様々な困難や障害を乗り越え、産みの苦しみを通過して、今や地域を代表するユートピアのような福祉施設として大輪の花を咲かせるに至ったことを知り、心から感動しました。横田さんの理想とする心の福祉がここにあり、人を支える人によって人を支え、人によって支えられる福祉の心がここにあります。



人を信じて真心を信じて、地道な努力を信じ続けて、最後まで心の中の宝物を忘れずに、温かい笑顔を絶やさなかった人たちの「まほうの家」の奇跡の記録がここにあります」・・・。

横田さん、涙ぐんでいますよ。本当に大変だったと思いますけれども、「人を支え、人によって支えられる福祉」・・・、ここがいちばんいいと思いました・・・、っていうのは、だいたい福祉に携わっている人は勘違いしてしまって、「人を支えているんだ、支えているんだ」っていう、何か押しつけがましいようなものが多いのですが、けれども、こちらも支えられていますよね、実は、  
そういう思いをきくと横田さんも持ってここまで来られたと思うのですが、いかがでしょう？



そうですね、「人」という字がありますよね。これは支えて支えられているっていう形で「人」という字が成り立っていると思うんですが、例えば、一方的なものだったら多分「人」という字は潰れて無くなってしまおうと思うんです。でも、やはり、支えて支えられて「人」という字が出来あがる、お互いに支えて支えられた接触によって両者が共に心に潤いをいただく、それによってお付き合いが続いていくんだと思います。



そのとおりだと思います。感動しちゃいますね。「まほうの家」といいますと・・・、「まほう」という字は「真」の「宝」とね、書きますよね。



そこにいと病気になるなかつたり、無事だということで「マジックの魔法も引っかけ」ってことなんです、本当にすばらしい、もう「家」ですね、「施設」じゃないですね。ここが今、満室(当時)ということなんです。私も順番待ちになってしまいましたけれども、私も「まほうの家」さんでやっかいになろうと思っているんですが、例えば「まほうの家」のいちばんすばらしいところは・・・今、横田さんがおっしゃった



とおりなんです、いろいろと楽しいイベント・・・、横田さん、イベント好きですね、人を楽しませるのが大好きで、楽しい人の顔・喜んでいる人の顔を見ると、喜びがね・・・。この前「毒蝮さん」が来たそうなんですけれども、おもしろかったですね。うちの伯父



さんが最初にね、ただ来ただけなんだけども、入居者だと思われて、いちばん最初にマイク向けられちゃったんですよ。そしたらちゃんと答えて「ここはいいですよ」って、あたかも入居者のようにね、「よくやった」と思いました、うちの伯父さん。この時も横田さん、「毒蝮さん」に負けないですからね。演説もお上手ですよ。私も習いに行こうかなと思って。しゃべり方教室かなんかね・・・。緊張してます？



やっぱり・・・、  
何度来ても緊張してます。



緊張してなさそうなんですけど、実は緊張しているということをお聞きしましたが・・・。それと、これは、「90歳のお祝い」・・・。



90歳の人、今は90歳がザラですからね。90歳代が4人おりまして、お誕生会をしました。



そして、私もですが、月に一度ですけど、ヴォイストレーニングと歌謡教室をさせていただきに「まほうの家」に伺っておりますけど、なんと無料です。本当にボランティアでお互いに少しでも地域の皆様が元気になるように、いろんなことをやっております



ので、ぜひ、今「順番待ち」ではあるのですが、とりあえず来ていただいて「あ、こんな素敵なお所なんだな」ということをわかっていただいて、また、もし空きがあったら・・・ということですね。すぐ入りたくなっちゃうと思うんですが、どうしよう？



見ていただくのがいちばんいいと思います。イベントに参加して下さるのは自由です。



そうですね。ぜひ「レッスン」にも来てください。そしてですね、きょうは「月の歌特集」ということで、「生歌コーナー」!!  
いよいよでございます。その前にもうおひとかたお便りをいただいているので読ませていただきます。「こんばんは、水木先生・横田様・『まほうの家』の皆様。きょうから11月に入り、昼が短くなり夜が長くなっております。それに伴いますます寒くなっていきますので、お体を大切にご慈愛に満ちた毎日をお過ごしください。『十三夜』ということで『十三の夜』と言いたいけれど、大阪の十三(じゅうそう 大阪市淀川区)地区の歌でテーマから外れそうですね。まじめなところで美川憲一さんの『十三夜月』が聞いてみたいです。」ありがとうございます。私たちががんばってますよ!



横田さん、この30年・・・、全部でどのくらいになるんですか、この活動をされて。



在宅福祉活動を始めたのが昭和61年ですから、31年になりますね。



でも、その前からちょっとずついろんなことをなさっていたんですよ？



はじめてこういう世界っていうのは「特別養護老人ホーム」という所の門を叩きました。



そこで少し経験させていただいて・・・。  
じゃあ、もうね、何だかんだ言って40年近いんですね、歳がバレてしまいます。



よくがんばられていますね。いろいろ大変だったと思います。私も時々ね、アッとバレルようなことを言ってしまうんですけどね。まあね、みんな必ず歳をとりますので・・・。さあ、それではですね、これ見てください。Iさんというかたがお作りになって、きょう横田さんが「十三夜」を歌うということで、そしたら「ニコニコアート」で作ってくださったそうなんです。



いろいろな「月のアート」の中で横田さんがお選びになったのが、このIさんの作品。なぜかという「月が青かった」。日本人の感覚なんだろうかね、月が青く見えるというのは、「十三夜」の最後に「♪青い月夜の十三夜」と入りますので・・・。  
さて、それでは横田さんに早速歌っていただきたいと思います。「十三夜」。



## 十三夜

作詞 石松秋二 作曲 長津義司  
海岸の柳の 行きずりに  
ふと見合せる 顔と顔  
立止り 懐しいやら 嬉しやら  
青い月夜の 十三夜



夢よ昔よ 別れては  
面影ばかり 遠い人  
話すにも 何から話す 振袖を  
抱いて泣きたい 十三夜

空を千鳥が 飛んでいる  
今更泣いて なんとしよう  
さようならと こよない言葉 かけました  
青い月夜の 十三夜



横田さん、バッチリでしたよ。すごく心配なさって。「ちょっと遅れていく」とかね、「コブシが回らない」



なると思いますので…。送ってくださるんですよ、私の知り合いの人が遠くに住んでいるのにもかかわらず毎号送ってくださって…。皆様にもお分けできますので、ぜひお申し込みください。

横田さん、きょうはありがとうございました。何か言い残したことはありませんか？

とか。回ってましたよ。素晴らしかったと思います。何か言いたいことはありますか？

「まほうの家」のことを随分きょうは説明できて、お年寄りのみんなが喜んでいると思います。

何回来ても緊張してしまうんですね。介護のことでしたらどんな悪い人でも恐いとかそういうことはないんですけども、歌の世界は、お遊びでみんな歌ってる時はいいんですけども、やはり、こういう所に来ると緊張します。

これからも楽しい、我が家のような「まほうの家」をめざして…、と言うか、そのようになっておりますので、ぜひ皆様も遊びに来てもらいたいと思います。

最後に横田さんにとって「福祉」とは？

「まほうの家」代表としてご立派でした。さて、時間が無くなってまいりましたね。最後に

「福祉」は、やはり「受ける」より「与えること」が大切だと思います。



素晴らしいです。きょうはみなさんありがとう。また来週。横田さんもありがとう。「まほうの家」のみなさんもありがとう。がんばって「人のため」…というか「自分のため」ですね、結局はね。楽しくやっていきたいと思います！



さて早速、生放送の翌日「まほうの家」リビングにて昼食時に拝見いたしました。「まほうの家」についての多くの魅力を十二分に語られた横田代表、お見事でした！皆様もぜひご覧くださいませ。

この「歩(あゆみ)」でいいんですね。これは「まほうの家」で会報として出されている最新の…



これは『たすけあい活動』30周年特別号』です。

第33巻 大千代市活動30周年特別号 平成29年(2017年)10月1日発行  
 福祉の心?ごま?列車  
 特定非営利活動法人 たすけあい一歩  
 発行所 東京都八千代市下町1-5-8  
 電話 0474-6517050 FAX 0474-117926  
 E-mail: tasukeai.spo@gmail.com

広がれ 福祉のこころ  
 一八千代市を中心としたたすけあい活動30年の歩み

歩

特定非営利活動法人 たすけあい一歩

これはいただけるようなので、福祉に感心のあるかたとか、横田さんのいろいろなことをお知りになりたいかたはぜひいい参考に

ニュースリリース 【視聴方法】「まほうの家」ホームページ(トップページ)、左項目をクリック後、リンク先でご覧いただけます。(「USTREAM」での配信はすでに終了しております)

- 横田代表が、水木翔子さんの「インターネットラジオ番組」に11月1日(水)出演しました(2017.11.-2)

# 老人の友人に対する至福

私のよろける足取りと

ふるえる手を理解してくれる人は幸いです。

私の耳は、人のいう言葉を聞きとるためには、

大きな努力が必要であることを

わかってくれる人は幸いです。

私の目はうすくなり、

私の行動はのろいということ

善意のうちにわかってくれる人は幸いです。

私がコーヒーをこぼしても、かわりない

平静な顔をしてくれる人は幸いです。

しばらく立ちどまって

明るくほほえみながらおしゃべりをしてくれる人は幸いです。

「きょうはその話を一度も聞きましたよ。」と

決して言わない人は幸いです。

楽しかった昔をとりもどす方法を

知っている人は幸いです。

私が愛されており、ひとりぼっちでないことを

教えてくれる人は幸いです。

私には十字架を荷なう力がないことを

わかってくれる人は幸いです。

愛情深く人生の最後の旅路の日々を

なぐさめてくれる人は幸いです。



# 武藤道雄さんと 過ごしたひととき

リンリーン！「G病院の地域連携室の相談員です。退院に向けて施設を探しております。経鼻の患者なのですが受けていただけますか？」

事情をお聞きしてお受け出来ますとお返事しました。数日後紹介業者からお電話があり、G病院から聞かれた患者と全く同じであることが分かりました。何となく裏の流れが見えて、私たちのような厳しい経営事業所では受けられないと思いました。でも状況を聞いていたので、施設で受け入れてもらうのは難しいのではないかと感じました。でも受け手が無く大変な人➡



リハビリで食堂へ  
昨年6月23日

「老人の友人に対する至福」と「最上のわざ」(次頁)は「愛の郷」に行った時に斉藤幸様からいただいたもので、いつも大切に何度も何度も読み返してきたものです。お年寄りに接するときに、イラついたり、腹が立つようなときには大変参考になるものです。介護の手不足をロボットで補おうとの計画もあるようですが、人の手に勝るものではありません。年齢をとるとそれまで出来ていたことが出来なくなったり、財布や鍵をどこかに置き忘れて探し回ったりする姿が見られます。本当に他人ごとではありません。24時間年中無休の中で、一步引いてお世話のできる心の余裕が欲しいものです。

さて、ことしもまた早速お楽しみの福祉行事がございます。日程等はまだ未定のものもございますが、予定しておりますものを前もってご紹介いたします。「平成」も1年間あるのはことが最後です。

- 1月14日(日)12時から 新年福祉の集い
  - 4月22日(日)12時から たけのこ狩りとバーベキュー
  - 7月7日(土)12時から 七夕と福祉の集い
  - 9月15日(土)12時から 敬老と福祉の集い
  - 12月24日(月)12時から 年忘れ年末福祉の集い
- 今から集いへ参加の計画を立てていただければうれしく思います。

# 最上のわざ

この世の最上のわざは何？ 楽しい心で年をとり、働きたいけれども休み、しゃべりたいけども黙り、失望しそうなきに希望し、

従順に、平静に、おのれの十字架をになう――。

若者が元氣いっぱい

神の道をあゆむのを見ても、ねたまず、

人のために働くよりも、謙虚に人の世話になり、

弱つて、もはや人のために役立たずとも、

親切で柔和であること――。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後のみがきをかける。

まことのふるさとへ行くために――。

おのれをこの世につなぐ鎖を少しずつはずしていくのは、

真にえらい仕事――。

こうして何もできなくなれば、

それを謙遜に承諾するのだ。

神は最後にいちばんよい仕事を残してくださいさる。

それは祈りだ――。

手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。

愛するすべての人のうえに、

神の恵みを求めるために――。

すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声を聞くだろう。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と――。

ヘルマン・ホイヴェルス「人生の秋」

こそ見てあげなければとの私たちの介護の原点に立ち返り、G病院へ面接に行きました。狭い環境の中で経鼻と手の拘束で、息が詰まるようでした。ここに通ってこられる奥様もさぞ大変なことと思いました。何よりも声掛けに応じてくれた時の武藤さんのお顔の表情に引き寄せられ、決心しました。

間もなく入所されて、せめて車椅子に乗ってみんなと一緒に過ごす時間を多くしたいと思っておりましたが…。

オムツから外に流れ出す水様便が続き、お尻は赤くただれ、ドクターに看護師を入れて処置の対策にてんやわんやの大騒ぎ。誰かが両手を抑えていないと、武藤さんは鼻腔を引き抜いてしまおう。看護師より繊維物の飲み物を紹介され昼のみラコールを繊維物に変えて様子を見ると、水様便が落ち着いてくれて、お尻のただれもようやく綺麗になりひと段落を迎えたと思っていたら、情け心で緩めた紐を取って、鼻腔を抜いてしまい、何度病院に連れて行ったことか。それでも秋ごろには全体的に安定して、「男の

純情」を歌ったり講談を聞いたり。時々怖い人に変身したり…、奥様の名前だけは忘れていませんでしたね。小学3年の女の子に「おめ、女か？男か？」と聞いて爆笑することもありました。正直厳しい状況はありましたが、せめて1年くらいはこんな穏やかな日々を送らせたいと思っておりましたが、発熱から約ひと月、11月30日午前2時45分、下顎呼吸から静かな呼吸に変わり、安らかに永久の眠りにつかれました。半年と言う短い期間でしたが、なぜかみんなにかわいがられる人柄を感じさせて、介護者をホッとさせる武藤道雄さんでした。合掌 (ご寄付をありがとうございました)



立てるまでに回復 昨年6月9日



# 今号は こころ訪問マッサージ

按摩マッサージ指圧師  
菊地昌彦様



今回は 株式会社 シルバーホクソン  
安達正裕様

今回は「まほうの家」生活相談員  
荻野明子様

こころ訪問マッサージ、按摩マッサージ指圧師の菊地昌彦と申します。私の自己紹介をさせていただきます。

私は今年の3月より独立いたしました。マッサージ歴はアルバイトで2年ありますが国家資格を取ってから2年とまだまだ未熟です。そして私は視覚障害者です。病名は「先天性網膜色素変性症」という国の特定疾患に指定されている病気です。今現在、治療はなく徐々に視野が狭くなり、個人差はありますがやがては失明になることもあります。一般的に健常者の視野角度は160～170度と言われていますが、私は今現在5～6度でかなり視野が狭い状態です。わかりやすく言うと皆さんが五円玉の穴から見る感覚です。幸いにして視力自体は左右共に0.6ぐらいあるので、ゆっくり歩行して、頭を振りながら細心の注意を払ってなんとか仕事もでき、日常生活も送ることができています。子供のころから暗いところが苦手（夜盲症）でしたが、視野が狭いという自覚症状はなくこれが普通と感じていました。しかし大人になるにしたがって、ほかの人より見えていないことに気づきました。例えば、お酒の席で隣からお酌を勧めていただいていることに気付かず、その場の空気が変になったことや、人混みでぶつかることが多く、けんかになりそうなこともありました。また建設会社に就職していた時は、車を運転することも多く、歩行者がいることに気付かず事故を起こしたこともあります。そんなことがあって、34歳の時に眼科を受診し、この病名を宣告されました。この時には結婚もして、子供もいました。これから先のことを考えたらすごく不安になり、悩む日々が続きました。

しかし、そんな時に妻の実家でもある千葉県に「按摩マッサージ指圧師」という資格を取れる盲

学校があると聞き、38歳の時に第2の人生をスタートすることになりました。この盲学校は、視覚障害のある人たちが幼稚部から高等部そして鍼灸、マッサージ科と、子供から大人まで普通の学校と変わらず教育を受けることができます。私は按摩マッサージ指圧の資格を取るために3年間学校に通い、専門知識を身に付けました。患者様を学校に呼び、実践的に施術をし、技術を磨き、患者様に対しての対応、接し方を学び、この知識と技術が身になり晴れて国家資格を取得することができました。

この病気を恨むこともありましたが、今は治らないのならこの先もこの病気と仲良く付き合っていくと思っています。現在、まほうの家様をはじめデイサービスや各お宅をお伺いして施術をさせていただいております。今はこの職業に就いてやりがいを感じています。人生の大先輩である患者様との出会いを大切に、痛みを少しでも和らげ元気になってくださるよう心を込めて施術させていただきます。マッサージの経験もないかたも一度お試しになって、この良さを味わっていただけたらと思います。これからもまほうの家様をはじめ、こころ訪問マッサージをどうぞよろしく願いいたします。【お問い合わせ ☎090(8720)7348】





# 「敬老と福祉の集い」

敬老の日に お祝いをしました

「敬老と福祉の集い」  
「まほうの家」9月18日

敬老の日



# 講演「すみれ亭香方」様

まさか「まほうの家」で「講演」が聴けるとは...

講演師 すみれ亭香方さん  
「まほうの家」10月17日

講演



敬老の日の9月18日、「たすけあい一步」では「敬老と福祉の集い」を開催、多くのお客様にお越しいただきました。「敬老の日」とあいまって政界の皆様は各所掛け持ちで大忙し。ご多忙の中、おいでいただきありがとうございます。ビンゴ大会に歌謡フェスティバルに、にぎやかな敬老の日でした。

「まほうの家」近隣にお住まいの講演師・田中様に「講演」をご披露いただくことになり、10月17日に開催されました。めったに見られない「講演」に、ご入居者様は大喜び。およそ1時間の間、聞き入っていらっやいました。特に地元・「佐倉宗吾郎」のお話しには関心がありました。日頃ベッドでお過ごしの皆様を含め 全員を集め「香方様」のお話に耳を傾けました。題目はふたつ、「徂徠豆腐」「佐倉宗吾郎から甚兵衛の渡し」、ありがとうございました。



## あなたも「たすけあい活動」に参加しませんか

あなたの空いた時間 あなたの得意とすることを ぜひ地域の中で役立ててください あなたの優しさを待っている人が大勢います

■「たすけあい活動」は会員制です

▲サービスをご利用されるかた 【入会金】10,000円 【年会費】3,000円 1時間1,500円 交通費実費負担  
(長時間の利用料金はご相談ください)

▲サービスを提供されるかた 【年会費】1,000円 1時間800円～1,000円 交通費実費負担

▲活動をご支援くださるかた 【賛助会員】一口3,000円 何口でも

お振込み先は 千葉銀行(0134)八千代緑が丘支店(048) 普通 3460607

特定非営利活動法人 たすけあい一步 理事 横田治絵

この他にもいろいろな活動会員がおります。詳細は☎047(485)7050 または☎080(1213)6761 横田まで お気軽にお電話ください。

# ママちゃん「会報」読む!!

半年ぶりの再会「会報」を手渡しました



ママちゃん

タレント 毒蝮三太夫さん

# 「お誕生会」

「90歳万歳!」ほか多数

90歳代の「お祝い会」 「まほうの家」10月22日



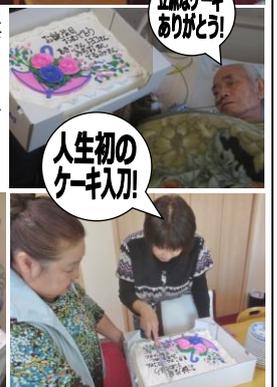
お誕生日



昨年3月30日、TBSラジオ様の番組「ミュージックプレゼント」生放送のために「まほうの家」にお越しいただいた「毒蝮三太夫さん」。再度、同番組が八千代市内から放送との情報を得て、ママちゃん訪問の記事を載せた「会報」を持参し伺いました。私を見たママちゃん、「お前、よく見るな。」「いえ、前回、『まほうの家』でお会いして以来ですよ。そんなことより、コレ…『会報』見てくださいよ、ママちゃんの記事がこんなに!!。「ほお、すげえなあ。放送後「奴の作ったアレくれ」とディレクターさんに指示し、赤坂までの車中、ご覧いただいた…のかな。ママちゃん、TBSラジオ様、そして中継先・美容室「D」の皆様、ありがとうございました。



「まほうの家」ご入居者様のお誕生日が連続した下四半期、それも90歳を迎えた・越えたご入居者様ばかり。その結果「お誕生会」頻発。みなさん、ご長寿万歳、健康で長生きしてください!



## 「まほうの家」で介護を通じ人生を一緒に考えませんか? 介護職員を募集します

お年寄りに敬意をはらえるかた ほか、後述の趣旨に賛同いただけるかた、ぜひ弊社へ!! 福祉社会の改善にあなたのお力添えを!



【正社員】【月給】最大26万円+ 諸手当  
【勤務】24時間 変則シフト制  
▲休日シフト制 ▲社会保険完備  
▲交通費支給 ▲車通勤可  
▲詳細は面談時にお問い合わせください  
【パート】【時給】850円~1,500円  
【勤務】都合のいい時間でかまいません  
土曜・日曜日に勤務できるかた 優遇します  
【資格】「ヘルパー2級」無資格でも可  
「介護福祉士」「社会福祉主事」のかた歓迎

お問い合わせは☎047(409)8568 担当は横田・荻野です。お気軽にお電話ください。  
ご応募の際は、電話連絡のうえ「履歴書(写真添付されたもの)」を持参し来社ください



サービス付高齢者向け住宅

まほう

# 真宝の家

めぐり逢うご縁で集う 居心地のよい居場所



季節を感じる 家庭的なお食事

お食事はすべてスタッフの手作り。季節感のある おいしいメニューをご提供いたします。ホームページにてメニュー公開中!

まほうの家

## 入居者受付中

ひと月あたり13万円以上 18万円以内、要支援から重介護までOK  
夫婦でご入居希望 経済的事情で生活に困窮されているかた、  
生活保護受給されているかた、ご相談ください

### 自由に独立した生活

スタッフが24時間365日常駐、おひとりおひとりの生活に合わせた見守りや安否確認の訪問をいたします。

【施設概要】 ■施設類型/サービス付高齢者向け住宅 ■介護保険/在宅サービス利用可 ■居住の権利形態/賃貸借契約 ■利用料の支払い方式/月払い ■居室区分/全個室 ■入居時の物件/自立・要支援・要介護



お花見は もちろん たけのご狩りにも



おめでとう

イベント多数!! お誕生会は 毎月

ありがとう

広々とした居室 全室 お手洗い・収納 完備



歌手を招いて 毎月「歌謡教室」

■交通のご案内 東葉高速鉄道・八千代緑が丘駅より千葉ラインバス、船尾車庫行き 島田台停留所下車 徒歩およそ5分 京成線・勝田台駅、東葉高速鉄道・東葉勝田台駅より 車でおよそ15分



毒喰三太夫も来てくれました!!

毒喰三太夫さん お誕生日おめでとう!!



お気軽に お問い合わせください

# 047-409-8568

24時間 年中無休

株式会社 あゆみ

担当: 横田・荻野 千葉県八千代市島田台木戸場 8 7 9 - 7